

○ 激変環境下の法人・教学トップにとっての重要テキスト

西井 泰彦

日本私立大学協会附置日本私学高等教育研究所 主幹
(学)就実学園 理事長

高等教育を巡る環境は激変している。私立大学を担う責任者にとって、大学教育の改革や大学組織の改編は不断の使命である。大学制度の見直しには学校教育法や私立学校法などの法令の理解が必要となる。具体的な学部学科の新設改組や定員の増減を行うときには所轄庁への設置認可の申請や届出行為が不可欠である。

一方、設置認可行政は年ごとに複雑に変化しており、その手続きや事務は極めて難解である。開設時点から数年も経過した大学では、最新の認可等の動向や仕組みについていけなくなる場合が多い。この結果、申請しても書類不備や準備不足によって取り下げに追い込まれるケースも見られる。

最近では、設置認可行政と連携する認証評価制度の在り方も変わっている。平時における自己点検評価と認証評価機関による外部評価に備えるとともに、大学制度の改変に適時に対応して設置認可・届出の業務を円滑に遂行できる人材を養成し、改革組織の戦力を整備することは大学の生残りと発展にとって重要なテーマである。

大学の設置認可に関する書籍として平成28年までは公益財団法人の文教協会によって『大学設置審査要覧』とその別冊である『大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き』が毎年刊行されていた。各学校法人は大学設置認可等の担当部署や教学部門の必携図書として活用してきた。法令だけでなく文部科学省からの過去の重要な施行通知も網羅されていたため、大学行政を歴史的、総合的に理解するための格好の参考資料であった。しかし残念ながら、同年版をもって発行されなくなって久しい。

今回、地域科学研究会の高等教育情報センターの並々ならぬ努力によって、『大学設置審査評価法令集－2020年10月版』が出版された。同センターは、大学や学部等の設置を企画する各学校法人の業務を永年にわたって支援してきた組織である。これまでの『審査要覧』の内容に最新の法令と施行通知を加えるとともに、認証評価機関による評価基準等を掲載している。また、私立大学のガバナンスと質保証に関する重要政策動向について幾つかのポンチ絵を収録しており、多層的な政策の要点がよく理解できる。

本書は、設置認可申請等の企画部署や認証評価等に係るIR部門だけでなく、大学の教学執行部や教務事務等の担当者、更には、大学及び学校法人の経営責任者にとっても、改革の取組みを進める上の重要なテキストであり、手に置いておくべき基礎資料である。

最後に、採算ベースにとらわれず、貴重な高等教育の政策資料をアーカイブとして後世に残そうと取り組んでいる同センターに改めて敬意を表する次第である。 (2020.12.18)